

2022 年度 小委員会活動成果報告

(2023 年 1 月 19 日作成)

小委員会名	空地アーバニズム戦略小委員会	主 査 名：遠藤新 就任年月：2019 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	都市計画委員会	委員長名：野島慎二
設置期間	2019 年 4 月 ～ 2023 年 3 月	
設置目的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>少子高齢化、人口減少と経済縮退を背景として空き地が増加、常態化していく都市においては、建築的利用を前提とした過渡的な状況として空き地を捉えず、「空いていること」に価値を見出し活用する方策こそが求められる。空き地が常態化してもなお人が都市に魅了され暮らし続けるには、空き地から人間と都市の関係を再考することが必要である。本小委員会は、個々の空地対策のみに着目するのではなく、空き地が増加・常態化していく都市のあり方そのものを抜本的に問い直し、都市のレジリエンスやサステナビリティ、あるいは都市の魅力や文化、アイデンティティを継承するための空地デザイン、空地アーバニズムについて研究する。</p> <p>初年度：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過年度の活動成果を踏まえた書籍の刊行企画について内容検討 ・書籍化のための空地アーバニズム・空地デザイン事例のケーススタディ ・各委員の関与・連携する空地的実践研究を通じた課題 AB の取り組み（～4 年度） <ul style="list-style-type: none"> > 研究課題 A. 空き地の公共的利用から都市を計画する空地アーバニズムに関する研究 > 研究課題 B. 空き地の公共的利用を促す空地デザインの実践手法に関する研究 <p>2 年度：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・刊行企画の提出、書籍の執筆 ・研究課題 A の進捗を踏まえた大会オーガナイズドセッション(1)の企画実施 <p>3 年度：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書籍の刊行（夏の大会を目指して）、研究課題 AB の中間とりまとめ ・研究課題 B の進捗を踏まえた大会オーガナイズドセッション(2)企画実施 <p>4 年度：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大会研究集会（PD）の企画・実施、小委員会の活動成果とりまとめ ・小委員会活動の総括として、研究課題 AB の成果を踏まえた書籍の刊行を企画 	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有	
	主査：遠藤新（工学院大学） 幹事：阿部俊彦（早稲田大学） 委員：秋田典子（千葉大学）、泉山墨威（東京大学）、角館政英（ぼんぼり光環境計画(株)）、窪田亜矢（東京大学）、園田聡（ハートビートプラン）、土橋悟（(株)都市環境研究所）、中尾俊幸（(株)RIA）、長濱伸貴（神戸芸工大学）、星野裕司（熊本大学）、安森亮雄（宇都宮大学）、矢吹剣一（神戸芸工大学）、蕭閔偉（大阪市立大）	
設置 WG	該当なし	
2022 年度予算	220,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://openspacedesign.club

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回（年度内開催予定含む）、ほか出版企画・研究集会準備のための幹事会 7 回
刊行物	該当なし
講習会	該当なし
催し物	該当なし
大会研究集会	1. 都市計画部門パネルディスカッション「縮小時代における空き地活用の方法論」（参加者 74 名）
対外的意見表明・パブリックコメント等	該当なし
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 書籍の刊行企画について内容整理、構成案の作成、本格的執筆の準備 2. 大会研究集会（パネルディスカッション）の企画・実施
委員会活動の問題点・課題	1. 刊行計画のとりまとめ、出版にむけた原稿とりまとめ 2. 行事・催し物を通じた社会に対する発信の強化